

**宮城県での豚熱発生に係る  
防疫対策連絡会議  
(持ち回り開催)**

**開催日：令和3年12月13日（月）**

**出席：知事、副知事、危機管理局、  
生活環境部、農林水産部**

# 会議内容

- 1 豚熱の国内発生状況
- 2 宮城県の発生事例の概要
- 3 国の対応状況
- 4 鳥取県の対応状況
  - (1) 宮城県の発生事例に対する鳥取県の対応
  - (2) 今後の豚熱防疫体制
- 5 お願い

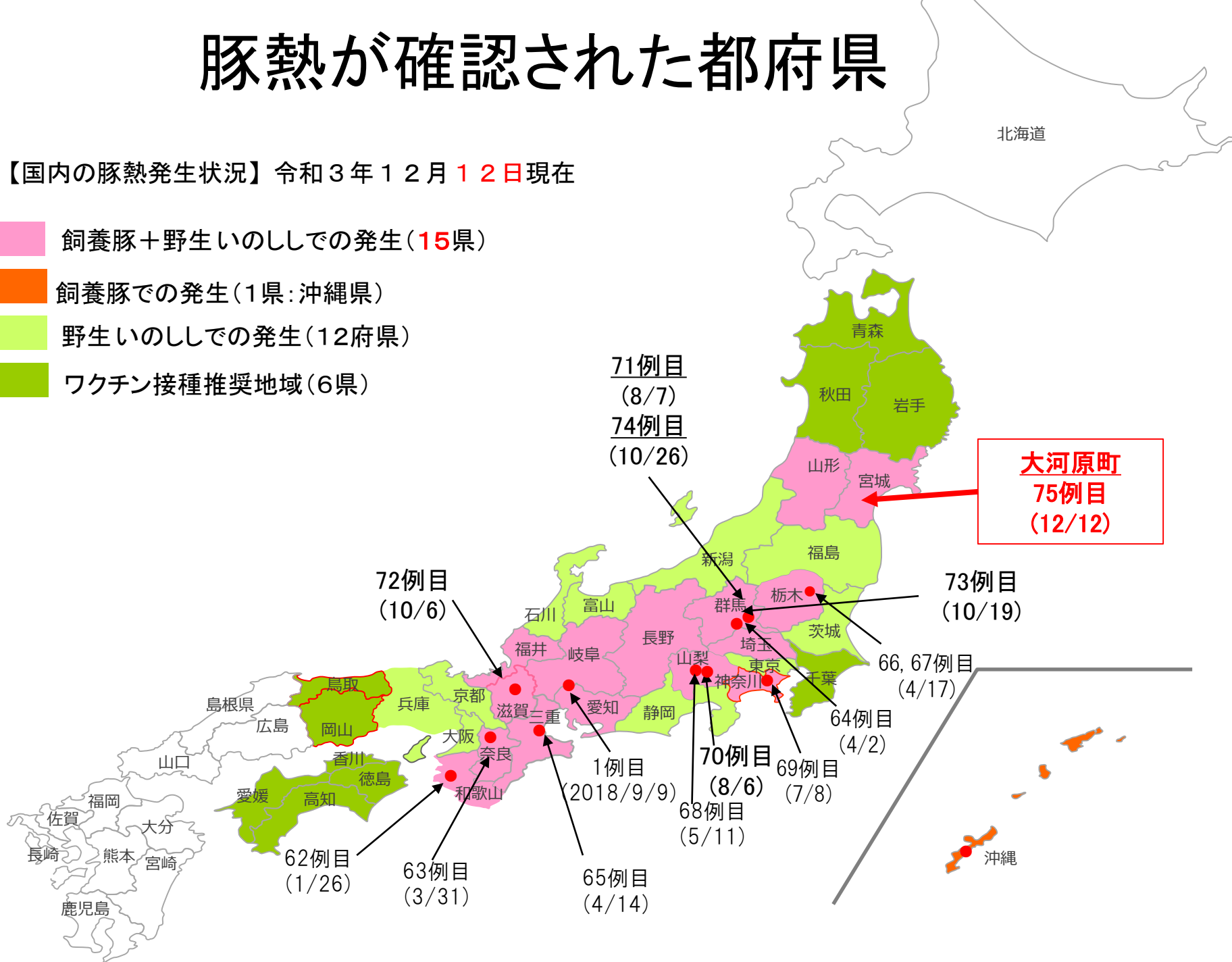
# 豚熱の国内発生状況

- 1 平成30年9月9日、岐阜県養豚農場で発生(1例目)し、令和3年1月にかけて岐阜県、愛知県、長野県、三重県、福井県、埼玉県、山梨県、沖縄県、群馬県、山形県及び和歌山県で発生。今年3月以降も、奈良県、三重県、栃木県(2例)、神奈川県、山梨県(2例)、滋賀県、群馬県(4例)、宮城県の内いずれもワクチン接種農場で発生。  
宮城県では豚熱は初めての発生。
- 2 野生いのししの感染は25都府県で確認。隣県の兵庫県では、令和3年3月16日に丹波市の死亡いのしし2頭で初確認し、12月1日まで60頭の陽性を確認。

# 豚熱が確認された都府県

【国内の豚熱発生状況】令和3年12月12日現在

- 飼養豚＋野生いのししでの発生(15県)
- 飼養豚での発生(1県:沖縄県)
- 野生いのししでの発生(12府県)
- ワクチン接種推奨地域(6県)



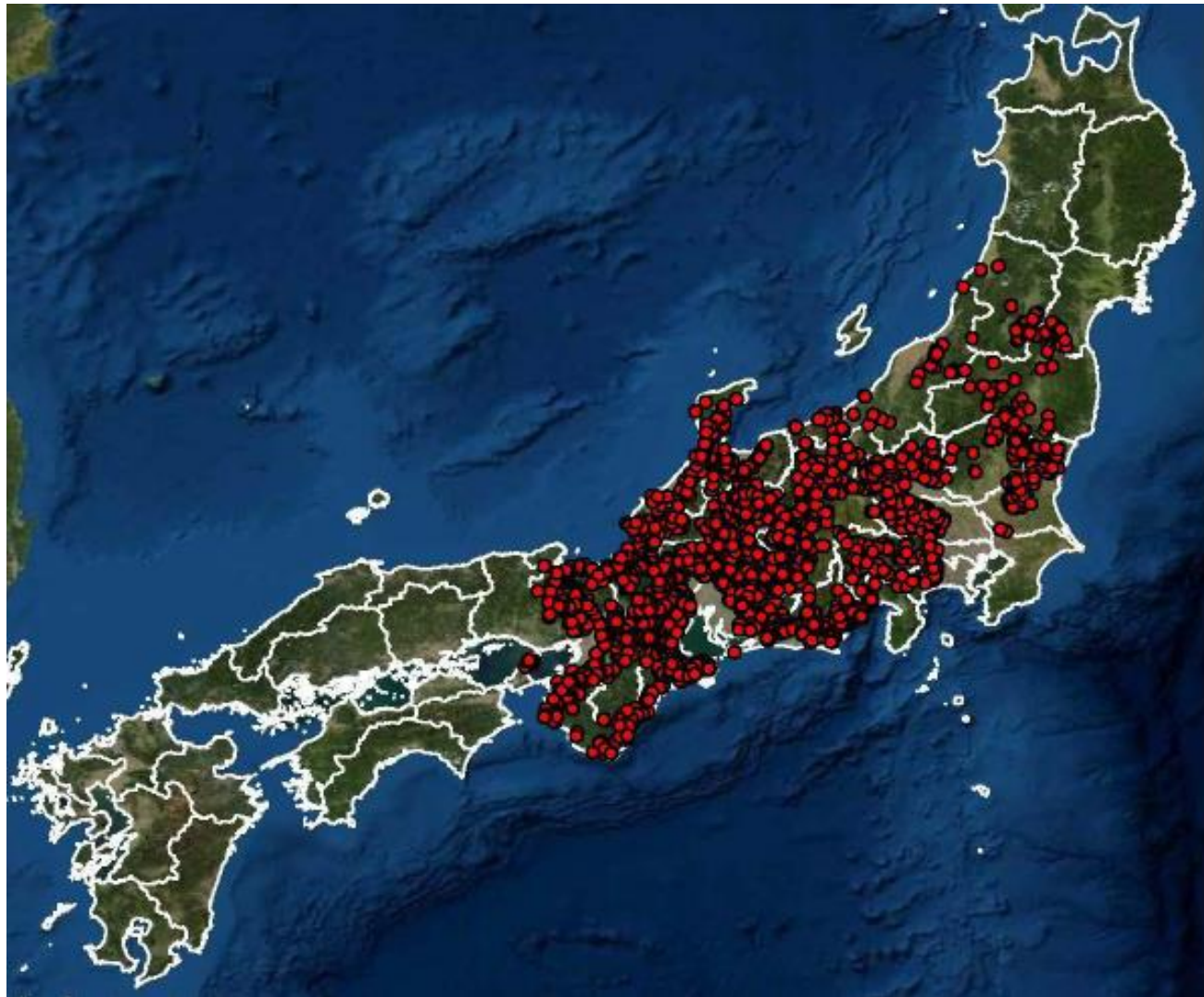
# 豚熱の国内発生状況(飼養豚)

No.	発生地	畜種	発生日	飼養羽数	防疫措置完了日	その他
1~63	岐阜、愛知、長野、三重、福井、埼玉、山梨、沖縄、群馬、山形、和歌山、奈良	豚、いのしし	H30.9.9~ R3.3.31	154,046頭		
59	群馬県高崎市	豚	R2.9.26	5,887頭	R2.10.9	
60	山形県鶴岡市	豚	R2.12.25	1,250頭	R2.12.29	
61	三重県伊賀市	豚	R2.12.29	7,026頭	R3.1.7	
62	和歌山県かつらぎ町	豚	R3.1.26	267頭	R3.1.29	
63	奈良県奈良市	豚	R3.3.31	1,089頭	R3.4.3	
64	群馬県前橋市	豚	R3.4.2	9,970頭	R3.4.16	(関連1農場含)
65	三重県津市	豚	R3.4.14	10,842頭	R3.4.23	
66	栃木県那須塩原市	豚	R3.4.17	17,266頭	R3.5.17	
67	栃木県那須塩原市	豚	R3.4.17	22,096頭	R3.5.17	
68	山梨県中央市	豚	R3.5.11	2,642頭	R3.5.14	
69	神奈川県相模原市	豚	R3.7.8	4,328頭	R3.7.21	(関連1農場含)
70	山梨県道志村	豚	R3.8.6	1,693頭	R3.8.11	
71	群馬県桐生市	豚	R3.8.7	6,068頭	R3.8.26	
72	滋賀県近江八幡市	豚	R3.10.6	1,424頭	R3.10.10	
73	群馬県前橋市	豚	R3.10.19	3,940頭	R3.11.1	(関連1農場含)
74	群馬県桐生市	豚	R3.11.26	2,632頭	R3.12.3	
<b>75</b>	<b>宮城県大河原町(おおがわらまち)</b>	<b>豚</b>	<b>R3.12.12</b>	<b>9,700頭</b>		(関連1農場 2,200頭)

# 豚熱の国内発生状況(野生いのしし)

野生いのししでの検出状況(令和3年12月1日時点農水省調べ)

・陽性例は**25都府県**で確認(**4,195頭**)



# 宮城県の発生事例の概要

## 1 農場の概要（国内75例目）

場 所：宮城県大河原町（おおがわらまち）

飼養状況：9,700 頭

（疫学関連農場 同県白石市（しろいしし）1農場 2,200頭）

## 2 経過

- ・ 12月11日（土）、農場から複数頭でチアノーゼの異状が見られるとの通報を受け宮城県が立入検査を実施。豚熱の疑いが生じたため、国へ材料を送付し精密検査を実施
- ・ 12月12日（日）18時、国の遺伝子解析で豚熱感染確認

## 3 宮城県の対応

- ・ 殺処分開始（12月12日（日）夜開始）
- ・ 豚熱ワクチン接種区域のため、移動制限及び搬出制限無し

# 国の対応状況

## ■ 12月12日(日)

- ・農林水産省豚熱、アフリカ豚熱対策本部会議の開催
- ・全都道府県へ情報提供
- ・飼養衛生管理基準の遵守、早期発見、早期通報徹底を通知
- ・宮城県へ国の疫学調査チーム派遣を決定

## ■ 国の野生いのしし対策

- ・捕獲強化対策(ワナ増設等)
- ・農場への侵入防止対策(侵入防止柵設置支援)、全国の都道府県対象
- ・経口ワクチン散布を鳥取県を含む24都府県で実施



# 宮城県の発生事例に対する鳥取県の対応

- 1 発生情報の周知と注意喚起(市町村、養豚農場、農協等関係機関)(12/12)
- 2 県内養豚農場の状況確認(12/12)
  - ・県内20農場に異常の有無等を電話聞取り
  - ⇒ 異常なし、宮城県の養豚農場との疫学関連無し
- 3 農場の野生いのしし等野生動物の侵入防止策の徹底
  - ・侵入防止柵の点検、長靴の衣服の交換、車両消毒、早期通報等を再度徹底するよう点検・指導中

# 今後の豚熱防疫体制(飼養豚)

- 1 飼養豚、いのししへの豚熱ワクチン接種等
  - ・4/5(月)～4/23(金)に初回一斉接種済(約5万頭)
  - ・繁殖豚等への補強接種及び生まれてくる子豚、導入豚への追加接種を実施中(5/6～11/30までに約6万6千頭接種済)
- 2 ワクチン接種農場の抗体モニタリング(実施中)  
(前回)初回検査対象15農場407頭検査を行い、401頭(98.5%)でワクチンによる抗体陽性を確認。
- 3 ワクチン接種体制強化
  - ・県職員獣医師だけでなく民間獣医師(知事認定獣医師)による接種開始(8/16～11/30まで2名で6,700頭に接種)
- 4 農場の野生いのしし等野生動物の侵入防止策の徹底
  - ・侵入防止柵の点検、長靴の衣服の交換、車両消毒、早期通報等を再度徹底するよう指導

# 今後の豚熱防疫体制(野生いのしし)

1 県境付近の野生いのししのモニタリングを強化  
平成30年9月から令和3年12月3日までに県内全域で死亡、捕獲された野生いのしし505頭(うちR3年度は東部90頭、中部58頭、西部36頭の計184頭)について全て豚熱陰性を確認。

## 2 東部県境付近に経口ワクチン散布(約1万個)

- ・10月11~17日 第1回経口ワクチン散布終了(4,800個)
- ・11月8~17日 第2回経口ワクチン散布終了(4,800個)

(2回目散布の摂食状況の確認が終了し12月中に集計予定)

■ 散布ルート

- ・「鳥取県豚熱感染拡大防止対策協議会」に委託して散布

構成	県(農林水産部、生活環境部)、県東部の市町、森林組合連合会、養豚生産者協議会、猟友会、(公社)鳥取県畜産推進機構
----	--



## 3 狩猟者等への衛生対策

- ・狩猟者登録時のチラシ配布や県ホームページでの注意喚起実施

# 経口ワクチン散布1回目の野生いのししの摂取状況

区分	実施期間	実施地域
餌付け	9/27～10/8	鳥取市国府町 岩美町
散布	10/28～10/22	八頭町 若桜町
回収	10/20～11/2	智頭町

## 経口ワクチンの散布・回収実績

- ・散布個数 4,800個
- ・回収不能、採食跡有など 4,002個



いのししによるワクチン摂食の様子



一部地域で熊による経口ワクチンの摂食を確認

2回目の回収後(血液抗体が上昇し確認できるようになる12月以降)、散布地周辺で捕獲された野生いのししの血液を調査し、経口ワクチンによる抗体保有状況を確認中。**令和4年度も国事業を活用し、実施予定。**

# 豚熱対応窓口

(24時間対応しています。)

## ■生産者の皆さんの相談窓口

鳥取家畜保健衛生所	0857-53-2240	(夜間休日は転送)
倉吉家畜保健衛生所	0858-26-3341	(       "       )
西部家畜保健衛生所	0859-62-0140	(       "       )

## ■豚熱に係る死亡いのししに関する通報窓口

畜産課	0857-26-7286	
	090-8061-9109	(休日、夜間)

## ■豚熱に係る野生いのししに関する相談窓口

緑豊かな自然課	0857-26-7979	(夜間休日 0857-26-7111)
中部総合事務所環境建築局	0858-23-3275	(夜間休日 0858-22-8141)
西部総合事務所環境建築局	0859-31-9320	(夜間休日 0859-34-6211)

## ■平日夜間、休日、祝日相談窓口

県庁受付	0857-26-8663
------	--------------

# お願い

- 豚熱は、豚、いのししの病気であり、人に感染することはありません。また、感染豚の肉が市場に出回ることもありません。
- 今回使用する豚熱ワクチンは、医薬品、医療機器の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律に基づき、農林水産大臣に承認され、有効性及び安全性が確認されており、豚熱ワクチンを接種した豚肉を食べても問題はありません。
- 野生いのししの検査状況から、県内に豚熱が浸潤している可能性は低いと考えられます。異常な死亡した野生いのししを発見した場合は、県畜産振興局畜産課まで連絡し、その指示に従ってください。
- 現場での取材は、本病のまん延を引き起こすおそれがあることなどから厳に慎むよう御協力をお願いいたします。特に報道関係者の皆様におかれましては、養豚農場へ立ち入るような取材は防疫上ご遠慮ください。